

子、有各引物。

〔も、しき〕荒海障子并布障子等引手製皮如圖○圖略

藍革一枚 文菱 赤革一枚 無文

〔おほうみのはし〕中つかさのみこ、御數寄屋をいみじくこのみ給ひて、たてさせ給ふ、御ふすまの門松萬歳など、年のはじめの景物をゑが、せたまひて、引手をあはびの具にし、御ふくるだなのひきてを、丸のものもじにせさせたまひけるを、民部卿冷泉大納言為村見給ひて、

しめかざり松を引く手ののしあはび間毎にめでたう候はれける、と申されければ、みこかしこく興せさせ給ひける、

〔消閑雜記〕すべて人の心は、ものに著せず、とゞこほりなきやうにもてなすべきことなり、これ無事の上の有事なり、よく工夫すべきことなり、

我戀は障子のひつて、嶺の松火打袋に鶯のこゑ、此うたの心は戀慕の一念あれども、目前の障子の鑲鉤とうちみて、やがて嶺の松とき、過ぎ、火打袋のこちくを、いかにやくくとおもふうち、そのま、鶯のこゑなりけりとうつりし念頭、一點もとゞこほらず、當下一念の今日底なり、

障子種類

〔延喜式十五内藏〕元正預前裝飾大極殿○中障子十二枚韓紅花綾表、白綾裏、○中略 與内匠主殿掃部等寮共依例裝束

東

〔台記別記〕久安六年正月七日乙酉、今日無上達部殿上人諸大夫饗所々敷筵○中寢殿簾中調度未

立、上達部座障子可張絹、今日猶爲唐紙、不可然九日張絹

〔類聚名物考調度四〕案に布障子とは、多く白布にて張て、墨繪書たるもの多し、春日權現驗記の畫

卷物にも、白き障子に、墨繪にて牡丹に獅子書たるもの有、これ布障子なり、

〔安齋隨筆後編二〕一藏人所布障子 源氏桐つぼの卷、弄花抄に云、藏人所は、禁中、仙洞、執柄大臣家